

## 新年ご挨拶

誠に恐れ多きことながら、唯一の神・主神は、私ども一人ひとりの創造主であります。

主神は、私ども人類にメシア、すなわち、主神の子としての立場をお与えになるために、創造の始まりの天国において、ご自身の霊を宿す分霊<sup>わけみたま</sup>を無数にお生みになり、その分霊を帯びた私どもを地上にお遣わしになりました。

私どもと同様、地上に遣わされた明主様は、主神によるお導きと、主神に対するご自身の生きざまのうちに、メシアとして新しくお生まれになり、主神の子としての立場を全うされました。

主神は、ご自身の子を生むというみ旨を明主様のうちに成し遂げられました。

このことは、主神のこの上ない喜びであり、栄光であると思います。

私は、輝かしい年の始めにあたり、世界中の信徒の皆様と共に、改めて、この栄光を主神に帰させていただき、主神と、主神と共におられる明主様にお祝いを申し上げたいと思います。

そして、主神がご自身の子をお生みになった喜びを、私ども一人ひとりの中に、また、すべてのものの中に満たしてくださっているとともに、私どもも、私どもの模範となられた明主様に結ばれて、主神の子たるメシアとしての立場を全うできるように導いてくださっていることに対し、心から感謝申し上げます、謹んで新年のご挨拶をさせていただきます。

新年あけましておめでとうございます。

私どもは誰でも幸福を求め、そのためには心身共に健康でありたいと願っております。

そして、健康について考える場合、一般に寿命と言われる、限りある命の中での健康を考えております。

しかしながら、限りある命だけが人間の命なのでしょうか。

明主様は、お歌に、

「人の身は神が造りしものにして人の造りしものにはあらじ」

「魂<sup>たま</sup>機<sup>きは</sup>張る命の主<sup>ぬし</sup>は己にあらで神の御手<sup>おんて</sup>にあるを知れかし」とお詠みになりました。

明主様は、ご論文やご講話だけではなく、こうしたお歌を通して、私ども人間は、創造主であられる主神がお造りになったものであり、命というものは、私どものものではなく、主神のものであることをみ教えくださいまし

た。

一体、主神がお造りになり、主神がお持ちのものの中で、滅び去ってしまうものがあるのでしょうか。

主神の命に満たされていないものがあるのでしょうか。

私どもの命も、主神の命であり、主神のものである以上、いつまでも、いつまでも、永遠に存続するのではないのでしょうか。

私は、私どもが命を自分のものとしていたままでいたならば、命は限りあるものと言わざるを得ないような気がいたします。

ですから、私どもは、命が主神のものであることを認め、主神に対し、“あなたの命をわたしの命としておりました。お赦してください。命の源である天国に立ち返らせていただき、今までわたしの命としていた命をあなたに委ね、あなたの永遠の命をお受けさせていただきます、と申し上げることが、主神に対する礼儀なのではないかと思えます。

明主様は、「永遠生命」という御書をご揮毫になりました。

明主様にとって、永遠の命とは、生まれ変わることによる永遠の命ではなく、新しく生まれる、すなわち、命を主神の命としてお受けし、主神の子、すなわち、メシアとして新しく生まれさせていただくことによる永遠の命である、と私は信じております。

このことを、明主様は、ご昇天になられる前の年、脳溢血という重い病のさなかにあつてメシアが生まれた事実をご発表になられた時に、「生まれ変わるというんじゃないですね。新しく生まれるわけですね」と仰せになって、私どもにお示しくださっていたのではないのでしょうか。

明主様は、この時のお言葉の冒頭、「ずいぶん若くなってるよ私の方は」と仰せになりました。

重大な病からの回復が見られないにも拘らず、このように仰せになりました。

この「ずいぶん若くなってるよ」というお言葉を通して、明主様は、人間の命は限りあるものではなく、人間は、主神の永遠の命を宿すものとして限りなく成長していくことをお示しくださっているように思われます。

そして、そのあとに「私の方は」と付け加えられて、私ども一人ひとりに、“お前たちの方はどうだい、と問いかけてくださっているように感じられます。

明主様は今、私ども一人ひとりの中におられて、私どもに“どうだい、と尋ねておられます。

私どもは、命が永遠の命である主神のものであることを明主様より知らさ

れたものとして、“明主様と共にわたしも若くならせさせていただきました。ありがとうございます、と、今、お返事させていただきます。

終わりに、私は、主神が全人類をことごとく新しく生まれさせるというみ旨を私どものうちに成し遂げておられることに感謝し、世界中の信徒の皆様と共に、明主様と共にあるメシアの御名にあって、心から主神をお讃え申し上げたいと思います。

ありがとうございました。

以 上